

第7章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～900m程下った左岸に位置している。標高21～23mで現谷底との比高差は5mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約200m西に亀居遺跡、約150m南に江川南遺跡、約200m南東に東久保遺跡がある。

1987年の最初の調査から2015年11月現在、24地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

II 鶴ヶ舞遺跡第16地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2012年8月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

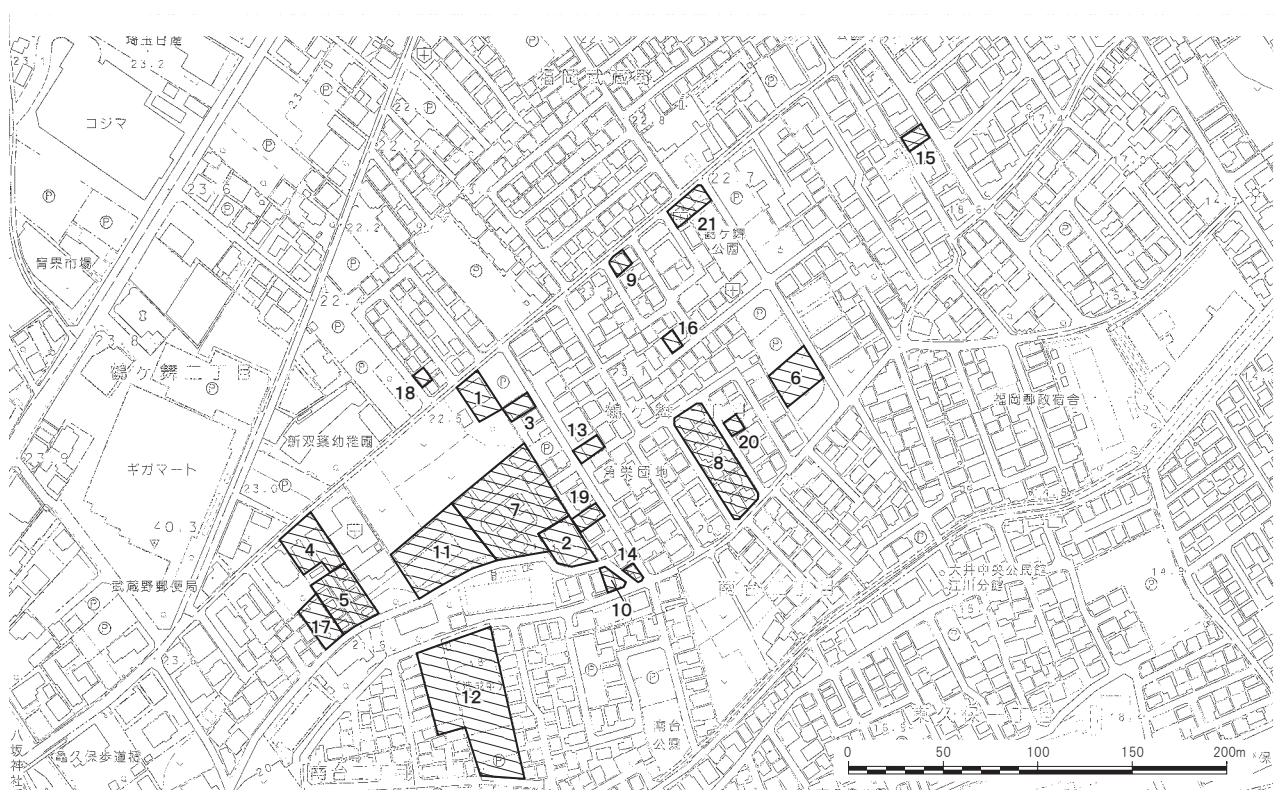
試掘調査は2012年9月7日、幅約1.0×1.0mのグリット6ヶ所を設定し、人力による表土除去と表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかった。地表面から遺構確認面までの深さは約35cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

III 鶴ヶ舞遺跡第17地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年11月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年11月16日、幅約1.0mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構覆土らしき痕を検出したので一部調査した結果、溝1条であった。地表面から遺構確認面までの深さは約45cmであり、30cmの保護層が確保できないため、発掘調査の措置とした。



第17図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

本調査は同日、遺構の範囲を重機で表土除去し人力で調査した。調査の結果他に遺構・遺物は確認できなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

【溝】溝は東西方向に 6.5 m 検出し、上幅 49 ～ 80 cm、下幅 33 ～ 45 cm、深さ 24 cm である。

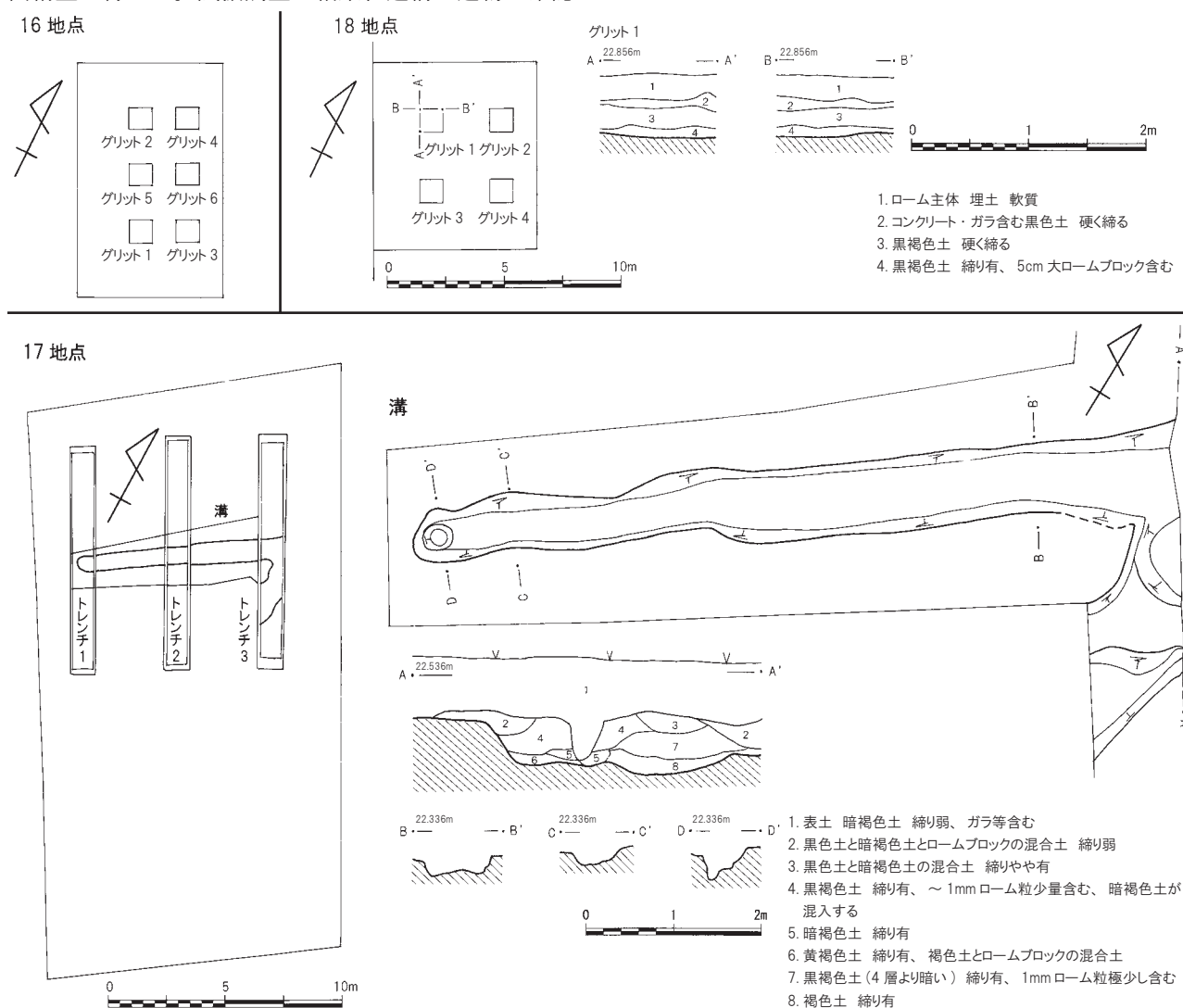
できなかった。地表面から遺構確認面までの深さは約60 cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

IV 鶴ヶ舞遺跡第 18 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2013年1月11日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北西端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年1月21日、幅約 1.0×1.0 mのグリット4ヶ所を設定し、人力による表土除去と表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物は確認



第 18 図 鶴ヶ舞遺跡第 16・18 地点調査区域図・第 17 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60・1/80)



鶴ヶ舞遺跡第 17 地点トレンチ 1



鶴ヶ舞遺跡第 18 地点全景